



徳島県の文化と自然

私は和歌山県から徳島県に嫁いできました。初めて来た時、徳島県の独特の文化に驚いたのを今でも覚えています。8月のお盆の頃でした。阿波踊りの練習前の若い女性たちがゆるゆると歩いてる姿に目を奪われ、徳島県が持つ文化に引きつけられました。

和歌山港から徳島県に着くと、あつたかい風と緩やかな雰囲気土地が心地よく感じました。スーパ―に置いてある花の周りに大きなアゲハチョウが飛んでいる、こんな何げないことでさえ徳島県の自然の豊かさを感じます。

藍染は世界各地にあります、その文化を日本で継承しているのが徳島県です。今後、世界に発信していける大きな宝であると思います。古来



新野町 谷口ゆうこさん

より世界中で行われている藍染ですが、その風土によって使う原料が変わります。日本ではタデ科の植物を使って染めるというところから来て初めて知りました。藍がめに咲いた「藍の花」を見た時の感動は忘れられません。日本人の先祖が大切にしてきた藍、見られて良かったです。

また、天皇が即位した後、初めて行う収穫祭である大嘗祭で献上される籠服あたらえも、徳島産の精麻で作られています。今は作る事が難しくなりましたが、最近ですが、最近では吉野川市で麻栽培を再開する動きがあるとのこと、これを機に麻文化が見直され、飛躍を遂げれば良いと思います。日本人が大切にしてきたものがある徳島県は、他県からきた私からみると魅力がいっぱいあります。新しいものばかりに流されず、古き良き文化を子どもたちにも伝え、生活に生かしていければと思います。

次は、上中町の多喜田真澄さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

入選

小西 千恵

流れ出る新米さつと手に受けてメガネをはずしじつと見つめる

入選

京寛 幸美

どつと笑う声響きたり二人居にお盆の一日娘や孫も来て

入選

入谷五十鈴

一夏を拘束されて動かせぬ右手みてに代わりて健気な左手み

入選

金本ひろみ

猫車に妹乗せて男子生徒はラジ体操の境内に來たり

入選

喜来富士子

越えて來し故郷の川の匂いして焼かれし鮭は伊万里の皿に

佳作

真田美代志

死亡欄に昔の彼の名前ありほんのちよつぷり心が揺れる

佳作

小田 和子

本堂に読経と蟬のコラボして永代供養のまつ只中に

俳句

阿南市俳句連合会選

品川 重晴

ねんごろに古きもの捨て年惜しむ

句座ほどけ十八番一節年忘れ

峰 敏勝

霜柱踏まる音まで儂なけれ

東條 明宏

松が枝に冬の月有りギターの音

神野 ゆき

赤蕪も色どりに良し三杯漬

工藤千鶴子

墨匂う命名「希歩」と冬牡丹

神野千鶴子

マフラーを巻いて埋れる丸き顔

吉崎 晶子

色深く雨にしつとり冬紅葉

小西 晴美

風に色見せては銀杏黄葉散る

東條 当子

穏やかな日差しの朝や笛子鳴く

宇川 延子

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

めりはりがある方が好き人と風

滝川 太郎

贅沢な一日暇を持て余す

田上 鶴子

女子会へ今日は少うし軽い足

武田 敏子

迎え撃つもののひとつに認知症

鈴木レイ子

幼にも弱みを見せぬ意地がある

岩佐まさよ